

2012/9/28
第41号
(24年9月号)

しののめ



長野県総合教育センター通信

〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

生徒指導・特別支援教育部長あいさつ

竹前 傳藏

オリンピック・パラリンピックの感動に包まれた熱い夏も終わり、充実の秋を迎えました。両大会では、印象に残る競技シーンや心に残る選手の談話など、世界中が感動と勇気を与えられたロンドン大会でした。‘To use the power of the Games to inspire lasting change’ これは、パラリンピックの大会ビジョンでしたが、選手たちの素晴らしい力、障害がありながらも自らの可能性に挑戦し続ける選手たちの誇り、人間のもつ可能性、まさに、the power of the Games を実感し、未来に向かって、引き続き変化を引き起こしていく (inspire lasting change)、大きな可能性を感じる大会でした。両大会が「相等しい」parallelな大会であることを実感した熱い夏でした。



大阪大学大学院の志水宏吉教授は、著書『公立学校の底力』の中で、子どもたちに自信や自尊感情を育み、子どもたちを元気づけ勇気づけ、個々がもつ可能性に気づかせることのできる学校を「力のある学校」(empowering school)と呼び、その8つの構成要素をスクールバスモデルとして提示しています。その第一要素は、スクールバスのエンジン部分で、「気持ちのそろった教職員集団」を当て、第二・第三要素が左右の前輪で、「すべての子どもたちの学びを支える学習指導」と「豊かなつながりを生み出す生徒指導」が当てられています。生徒指導は、共感的な人間関係を基盤として、児童生徒の自己指導能力を育成することを通して、個々の児童生徒の個性と社会性の伸長を目指すものであり、学習指導と両輪の関係にある教育活動です。

私は、特別支援教育と生徒指導で「学校は変わる、変えられる」と、確信しています。小・中・高、特別支援学校など、学校種を越え、教科の枠を越え、職種や経験年数を越えて、全ての教職員が特別支援教育と生徒指導の目指す方向を共有することで、「気持ちのそろった職員集団」をつくり、スクールバスのエンジンを動かし、子どもたちをempowerできる学校づくりが実現できると確信しています。一人でも多くの先生方に、当センターの特別支援教育及び生徒指導に関する研修講座を受講いただきたいと思います。

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉どおり、9月も下旬に入ると、あの残暑が信じられないくらいすっかり涼しくなりました。

秋の虫の声がにぎやかな季節ですが、古語辞典によると今の「コオロギ」が昔は「きりぎりす」と呼ばれ、今の「キリギリス」が「こほろぎ」また「はたおり」だったとか諸説あるようです。

漢字ではどちらも「蟋蟀」の字を当てますが、人が近づくとすぐ鳴き止んでしまう秋の虫たちですから、人々にはなかなか虫の姿と鳴き声とが正確には結びつかなかったのでしょうか。

芥川龍之介『羅生門』「広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗の剥げた、大きな円柱に、蟋蟀が一匹とまっている。」の「蟋蟀」。今でいう「コオロギ」か「キリギリス」か、どちらと解釈するかでだいぶ印象が変わってきます。



センターからのお知らせ

「リスクマネジメント研修」のご案内 (県総合教育センター・日本女子大学 共催)

日本女子大との連携事業「リスクマネジメント研修」が平成25年1月15日(火)、16日(水)に行われます。大学教員、弁護士が講座を担当し、「学校事故」、「いじめ」、「体罰」から「個人情報保護」に至るまで、危機管理の知識が不可欠な場面を多岐にわたって扱います。裁判例等を教材としつつ、ケーススタディ、ワークショップ的技法を用いて、日々の教育活動に役立つ実践的な研修を行う予定です。是非、ご参加ください。

詳細はセンターHP、または次頁をご覧ください。

- △期 日 平成25年1月15日(火)、16日(水) ※どちらか1日だけでも参加可能です。
- △対 象 初任者～教職経験10年程度の教員
- △会 場 長野県総合教育センター
- △申 込 センターHPから申込書式をダウンロードし、郵送で申し込んでください。
(申込期間：9/13～11/30)

今からでも間に合う研修講座(10月・11月開講の講座)

平成24年9月21日 現在

講座番号	講座名	対象	開始日～終了日	募集人数	講座PR
1 教科等研修					
3-1-01-23	書写の授業はこう考える	小中高特	11月8日～11月9日	8	何を大事にすれば子どもが達成感を感じる書写授業になるのでしょうか…学びましょう。
3-1-01-25	授業を通して考える中高連携国語	中高	11月29日～11月30日	11	中学では？高校では？互いの学習を知り、授業作りの手がかりをつかみましょう。
3-1-02-23	情報を活用する社会科学習の展開～新聞の活用～	小中高特	11月20日	2	新聞に焦点を当て、情報を活用する社会科の授業づくりについて考えましょう。
3-1-03-27	実践に学ぶ中高連携数学	中高特	11月8日	13	中学校と高等学校数学の系統性を大切にした指導の方法について学び合います。
3-1-03-30	大学進学と高校数学教育	高特	11月30日	15	高等学校の数学の学力を高める指導について学び合います。
3-1-04-35	基礎から学ぶ楽しい化学実験	中高特	11月8日	7	中高で使用する器具の基本操作や基礎的な化学実験の工夫例などを学びます。
3-1-04-36	授業に活かす中学校化学実験	小中特	11月22日	8	化学実験の工夫例と中学校における、より具体的な授業実践が学べます。
3-1-05-24	高校英語指導力養成講座	高	11月12日～11月13日	8	リーディング指導からコミュニケーション力育成につながる指導を考える講座です。
3-1-07-04	中学校・高校音楽基礎Ⅱ	中高特	10月30日	4	鑑賞や創作分野、和楽器を取り入れた音楽の授業を中心に学びます。
3-1-09-05	衣住生活指導のいろは	小中特	11月22日	1	衣住生活に関する指導内容を確認します。魅力的な教材について考え合います。
3-1-10-26	ワンチップマイコンを活用した計測制御	小中高特	11月2日	7	計測と制御の授業に困っている方向け、簡単にできる教材(USB-IOとHSPを使ったプログラム)で実習
3-1-15-22	実践！総合的な学習の時間	小中高特	11月13日	23	講義や実践発表をもとに、自校の全体計画等について検討し合います。
2 教育課題別研修					
3-2-08-26	教務主任のための学校組織マネジメントⅢ	小中高特	10月16日	7	様々な“連携”の取組事例や演習を通して、特色ある学校づくりのヒントが得られます。
3-2-10-21	カリキュラム・マネジメント	小中	11月29日	26	講義・実践発表・演習を組み合わせ、基本と役割を学びます。研究主任におすすめです。
3-2-10-22	作問研修(中学校国語)	中特	11月20日	6	達人・富山先生の講義や演習を通して国語科で付けたい力と作問について学びましょう。
3 情報教育研修					
3-3-04-22	グループウェアの導入と利用	小中高特	10月18日	4	情報共有を図るための、グループウェアの導入方法を学びます。
3-3-04-23	ファイルサーバの活用	小中高特	10月25日～10月26日	7	ネットワーク技術の応用講座です。アクセス権やグループポリシーの考え方や現場技術者からの指導を受けます。
3-3-04-24	CSSを活用した学校ホームページ	小中高特	11月15日	3	学校ホームページ作成の経験者を対象に、ホームページ作成上の留意事項について学びます。
4 産業教育研修					
3-4-10-21	専門教育の充実と改善	職業科	10月11日	9	専門教育の現状を理解し、様々な実践を通して専門教育の活性化に向けた取組を考えます。
3-4-11-21	組換え実験から学ぶ食の安全	小中高特	11月15日～11月16日	1	DNAを理解するためにやさしい実験の手法と食の安全についての基礎的な知識技術を学びます。
3-4-13-23	商業教育におけるビジネス倫理の必要性	高(商)	11月1日	9	企業の具体的な事例(CSRの取組)を取り入れながら、ビジネス倫理の必要性について学びます。
5 生徒指導研修					
3-5-02-04	実践！指導に生かす事例研究 高等学校	高	11月22日	3	困っている生徒指導の課題について、解決のための方策を仲間と検討します。
6 特別支援教育研修					
3-6-02-11	生きる力を高める生活単元学習	小中	11月22日	4	生活単元学習について、実践発表やグループ協議を通して具体的に学び合います。
3-6-02-23	キャリア教育の視点で授業をつくる	小中特	11月2日	20	キャリア教育の視点を授業や教育課程編成に活かせるように演習・事例等を通して学びます。
【特別講座】センター研究発表会 (詳しくは「研修講座案内」81ページをご覧ください。最新情報は随時当センターHPで紹介します。)					
5-1-01-01	センター研究発表会	幼小中高特	2月22日		大会テーマ 「伸ばそう信州の教育～学校の教育課題に対応する教員の組織力・指導力向上のために～」

※追加募集は10日前まで受け付けています。センターHPで確認して電子申請で申し込みをお願いします。

「リスクマネジメント研修」のご案内

長野県総合教育センター・日本女子大学 共催
(平成 24 年度 独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

本研修は、若手教員の皆さんが、保護者・地域住民と信頼関係を維持する上で不可欠な「危機管理」能力の向上と定着を図っていくことを目的としています。

大学教員、弁護士が講座を担当し、「学校事故」、「いじめ」、「体罰」から「個人情報保護」に至るまで、危機管理の知識が不可欠な場面を多岐にわたって扱います。裁判例等を教材としつつ、ケーススタディ、ワークショップ的技法を用いて、日々の教育活動に役立つ実践的な研修を行う予定です。是非、ご参加ください。

1 期 日 平成 25 年 1 月 15 日 (火)・16 日 (水) ※どちらか 1 日だけでも参加可能です。

2 対 象 初任者～教職経験 10 年程度の教員

3 会 場 長野県総合教育センター

4 講座のねらい

【キーワード】リスクマネジメント (危機管理)、リーガルマインド、教育訴訟

①法令、裁判例を基に、学校における危機管理の在り方について理解を深める。

②ケーススタディ、ワークショップを通じて、危機管理能力、リーガルマインドの定着と向上を図る。

5 講座の特徴 ICT を活用した個別学習 + ワークショップ型対面学習

6 日程・内容 (予定)

日程	時間	研修内容	講師
15 日 (火) (1 日目)	午前	いじめ	黒川 雅子 (東京女学館大学・准教授)
	午後①	情報管理	川 義郎 (東京ブライト法律事務所・弁護士)
	午後②	学校事故 I	坂田 仰 (日本女子大学・教授)
16 日 (水) (2 日目)	午前	教員の非違行為と懲戒処分	山田 知代 (東京女学館大学・非常勤講師)
	午後①	体罰	山口 卓男 (筑波アカデミア法律事務所・弁護士)
	午後②	学校事故 II	坂田 仰 (日本女子大学・教授)

※本研修を受講するには、研修当日までに、事前学習用サイト (<https://scp.jwu.ac.jp/>) にアクセスし、VOD 講義 (1 講義 20 分程度) を視聴することが必要です。(10 月 1 日から視聴できる予定です。)

7 申込方法

センターホームページから申込書式をダウンロードし、郵送で申し込んでください。(9/13～11/30)

8 その他

受講は無料です。参加については、出張扱いとし、各校の旅費予算から支出をお願いします。

長野県総合教育センター 企画調査部
部長 高野 正延 担当 吉越 秀之
TEL 0263-53-8802
FAX 0263-51-1290
E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

研修講座探訪①

予防開発的生徒指導研修「社会性を育てる SST」～学校における実践方法を学ぶ～

7月20日(金)実施

特別支援教育ネット代表として御活躍されている小栗正幸氏を講師に、7月20日(金)「社会性を育てるSST」講座を実施しました。SSTとは、Social Skills Training の略で、「社会生活技能訓練」や「生活技能訓練」などと呼ばれています。小児の分野では「社会的スキル訓練」とも呼ばれます。近年の児童生徒をめぐる問題(いじめ、不登校、暴力行為等)の多くが、コミュニケーション能力をはじめとする対人関係スキルの不足に起因していることから、講義・演習「社会性を育てるSSTの実践」をとおして、学校現場におけるSSTの実践方法について学びました。

演習では、「授業(教科指導)」については研究授業があるが、生徒指導についてはそのような機会が少ない」という現状を踏まえ、児童生徒への指導で困っていることをテーマに、指導や支援の工夫(対応策)について意見交換をしました。

講義では、「目のつけどころ」と題して、「悩みごと解決のための選択肢を増やす」「指導の手続き(未来を焦点化する)」「肯定的フィードバックを伴う無視」「習癖行動への対応」等、明日からでも実践できる指導や支援のポイントについて御講義いただきました。

◆受講者の感想から◆

- 実践的な指導のアイデアを紹介いただき、教室の中でできることがたくさんあると理解できた。
- 効果的な「一言」が参考になりました。
- 他校の様子や、問題解決のためのアイデアを聞くことができてよかった。

生徒指導校内研修支援 組織的な生徒指導を実現するための校内研修を支援します!!
生徒指導・特別支援教育部に御相談ください。



グループディスカッションの様子(左上:小栗講師)

産業教育研修講座「キャリア発達を促す進路支援」

9月4日(火)実施

生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育に位置づけられている職業教育に注目し、専門高校の学習内容や取組から、生徒の個に応じた進路支援を実現するための知識を学ぶ講座を行いました。午前中は、専門高校(農業、工業、商業、家庭・福祉)の目標や内容・特徴的な取組みを紹介。午後は、東京大学大学院社会学研究科教授 本田由紀先生より「社会の変容と教育の課題」の講演と、情報・産業教育部長から専門高校の現状についての講義を行いました。本田先生からは、戦後日本型循環モデルが破綻し、さまざまな問題が浮かび上がっている社会の現状や、義務教育段階から学力保障が形骸化され教育の格差がますます、「形式的平等」のもとに「垂直的平等」が進行し、すべての者に「居場所と出番」を確保しようとする「水平的多様化」になっていない。水平的多様化を行うためには職業分野に関連するような専門性を身につける必要がある。専門高校では、普通科高校に比べ満足度や教師への評価、専門性が人生の支えになる意識が高いという特徴があることなど、教育の職業的意義の必要性についてお話をいただきました。

受講者からは「専門高校の知識が今まであまりなかったが、専門高校の有益性を感じた。生徒が希望した際には、一緒に考えたり、進学先としてすすめたい」「これから教育現場でやるべきことが見えた気がする」などの感想がありました。



研修講座探訪②

産業教育研修講座「初めてのJavaプログラミング」8月9日(木),10日(金)実施

平成25年度からスタートする新教育課程の商業科目、「プログラミング」で取り扱われる予定であるオブジェクト指向型のプログラミング言語講座を有限会社ログ・インタナショナル代表取締役の羽山博氏を講師に、8月9日(木)・10日(金)の2日間で実施しました。この講座は、Java言語の主要な概念を理解し、初心者でも扱える技術を養い、指導法を身に付けることと理解の障壁となるポイントを押さえ、プログラミングを自ら読み進めていく知識を身に付ける。以上の2点をねらいとして、生徒の学習意欲の向上に役立てていただくために設定しました。

1日目はJavaプログラムが作成するためのEclipseの操作方法・クラスの定義とオブジェクトの作成・クラスの継承についての講義と演習を行いました。2日目は、Java言語で作成したプログラムをAndroidアプリケーション上で実行し、画像を動かすことを体験しました。受講者の皆さんは、難易度の高いJavaプログラミングでしたが、積極的に質問や発言をし、非常に熱心に取り組んでいただけました。

アンケートより「Javaプログラミングの概念がつかめて良かった。また、Android上で動かすことのできるアプリの作成方法も学べ、生徒が興味を持って学ぶことができる教材や環境も知ることができ、今後活かして生きたいと思います。」等の意見をいただきました。現場で先生方に活用していただけるように、来年度はさらなる研究を深め、より充実した講座が実施できるようにしたいと考えています。



産業教育研修講座「介護実習指導法」

8月6日(月)実施

高校福祉の教科担当者を対象に講座を実施しました。科目「介護実習」について、教材研究のあり方や実際の指導方法について学ぶとともに、基礎的かつ最新の介護技術を習得することで教科指導の実践力を身に付けました。丸山順子先生を講師に松本短期大学を会場として、介護における多様な場面ごとの技術的な指導法はもちろんのこと、介護に取り組む姿勢・心がけについても説明がありました。利用者ひとりひとりの意思を尊重するためにもコミュニケーションが大切であることを再確認できた講座になりました。福祉における研修の機会が限られるため、受講者は講師の一言一句も聞き逃さないようにし、一挙手一投足も無駄にしないように取り組んでいました。

<感想より>

- 技術を学ぶ場は本当に少ないので、このような講座は大変有効で勉強になりました。
- 多様な介護の手法を教えていただく中で、利用者ひとりひとりの状態に合った介護法はどのようであるか考える上で、大変参考になりました。
- 福祉の先生同士で情報交換する機会が少ないため、このような研修は、お互いにの学校の様子や実習方法を知る良い機会になりました。



「信州“Basic”」ご活用下さい！

～つける力を考える研修講座～

「信州“Basic”」生かした研修講座が、当センターでも行われています。「信州“Basic”」7ページには、『「ねらい（つける力）を明確に」ってどういうこと？』というページがあります。

よい授業をする第一歩として、授業のねらいを明確にすることが肝心です。つける力を明確にするための演習を取り入れた研修講座の一例を紹介します。

講座名
「小学校低学年図画工作基礎」

<講座の概要>

I 講義「低学年の図画工作」

II 研究協議
「子どもたちの作品の見方」

III 実習1
「素材と関わりながら発想を広げていく造形遊び」

IV 実習2
「自分らしく描く水彩絵の具の導入の題材」

V 実習3
「動く仕組みを基にして発想する工作」

<授業編> II-1 「ねらい」

「ねらい（つける力）を明確に」ってどういうこと？

○こんなことはありませんか？

導入が終わり、個人追究が始まってから、子どもに「先生、今、何やるんだっけ？」と言われる…

これは、導入で、子どもにねらいが意識付いていないのかもしれない。

子どもにねらいを意識付けるには…

- 具体物を操作したり、図を描いたり、学習カードに自分の考えを書いたり、考えを発表し合ったり…このような活動によって、学習問題（課題）について、子どもが主体的に考えたり、その後の追究に見通しをもったりできるようにする。
- 学習問題（課題）を、目立つ位置に板書する。
- 学習問題（課題）を、子どもと共に読んだり、ノート等に書く時間を確保したりする。

○こんなことはありませんか？

研究授業で、子どもが意欲的に調べたり話し合ったりしていたので、とてもいい授業ができたなあといいながら職員室に戻ると、先輩の先生から「子どもたち、元気に活動していて、とってもいい雰囲気だったね。でも、この時間につける力は何だったのかなあ…」と言われてしまいました。

子どもが活発に学習活動に取り組んでいるということは、とても素晴らしいことです。しかし、「授業のねらい」という面から考えると不十分な場合があります。ここでは、子どもが何に何に向かって活動に取り組んでいたのか、ということをとらえていくことが大切です。「ねらいがはっきりしている」ということは、「学ぶ中身がはっきりしている」ということです。「活動あって学びなし」とならないように気を付けましょう。

ねらいを決めだすには…

- ① 学習指導要領で示された各教科の目標や指導内容を確認する。
- ② 前時までの子どもの実態をとらえる。
- ③ 「知識や技能の定着を図る」のか、「思考力・判断力・表現力等を育成」ののか等をはっきりさせる。

ねらいを明確にして授業を構想するには…

- ① ねらいをもとに、授業終了の子ども姿をイメージする。
- ② そのような姿にするには、どのような学習問題（課題）で、どのような活動を展開することがふさわしいか考える。
- ③ ねらいを踏まえ、どのような授業でまとめの板書をするか考える。

III 実習1「素材と関わりながら発想を広げていく造形遊び」では、実習を始める前に、学習課題を設定する時間を設けました。

受講者は、提示された4つの造形遊び「A. 洗濯ばさみ」「B. 木片」「C. 広告を丸めた棒」「D. 身の回りから顔を見付ける」の中から、自分がやってみたいものを選びました。そして、それぞれがグループになって、この題材の第1時にはどんな学習課題を子どもたちに投げかけたらよいかを相談しました。

そのよりどころとなるのは、学習指導要領の指導事項です。指導事項は、題材の展開に伴ってア→イ→ウの順に指導していくことが考えられます。受講者は、第1時を想定して、指導事項の(1)ア「身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくる」の力を付けるには、どんな学習課題にしたらよいかを相談して、グループ毎に画用紙に学習課題を書きました。

学年	第1・2学年
	(1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。
発想構想 概要・スタート	ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。
発想構想 方法・プロセス	イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。
創造的な技能	ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。



受講者は、子どもの姿を想定し、この素材ならではの価値を考えながら、学習課題を決めだしていきました。

例えば、広告の棒をつなげていく造形遊びのグループでは、「つなげよう！高く広くかっよ」と学習課題を決めだしました。

つなげるとどんどん高く大きく形づくることができるのが、広告の棒の素材の価値です。棒を使ってチャンバラごっこをしていたのでは、造形遊びになりません。そこで、「つなげよう！高く広く」と呼びかけ、さらに「かっよ」という言葉を加えて、形に対する視点をもたせています。「つなげよう！高く広くかっよ」としたこのグループの学習課題は、子どもたちが広告の棒を使って、形をつくっていく楽しさを十分に味わわせることのできるものになりました。

このようにして、子どもの実態、素材の価値や指導事項から学習課題を決めだしていくことで、ねらい（つける力）を明確にした授業が展開されていくことになります。

そして、受講者は子どもの立場になって、実際に造形遊びを体験しました。最後には、他のグループの様子も見合い、学習課題ができたかどうかを見返し、授業の見とどけのあり方を考えることもできました。

受講者の感想：

「造形遊びについて、願いも達成できました。迷ったら指導要領にかえって、それをよりどころにして評価したり、学習課題を立てたりしようと思います。」

「今の自分になって、やっと言っている意味が分かるようになりました。指導事項のア・イ・ウの意味が、今日初めてつながりました。」

現在、信州“Basic”ビジュアル版を作成中です。ご期待ください。